

平成 22 年 6 月 5 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18320046
 研究課題名（和文） 仮面データベース構築に基づく能・狂言面の総合的研究
 研究課題名（英文） The Creation of the Database of Noh and Kyogen Masks and General Studies Based on It.
 研究代表者
 大谷 節子 (OTANI SETSUKO)
 神戸女子大学・文学部・教授
 研究者番号：90211797

研究成果の概要（和文）：本科研以前の調査も含め、これまでに63箇所、計1845点の能・狂言面のデータを集積し、これをデータベース化した。これによって、面の名称、墨書、刻印、刻銘などの文字情報から能・狂言面の検索が可能となった。面の異称などによる検索方法の改良は今後も必要であるが、能面データベースの雛形を作ることができた意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：A data base of 1,845 Noh and Kyogen masks from 63 collections, including those from previously conducted surveys, has been created making it now possible to search these masks by written information such as the masks' names, written information in *sumi* (India ink) beneath the lacquered surface of the backs of the masks, the carved seal signature and year of authorship. Although further improvement is needed in order to search masks by their other names, the creation of a Noh and Kyogen mask data base is very significant.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,500,000	0	5,500,000
2007年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2008年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2009年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
総計	14,200,000	2,610,000	16,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：能面・狂言面・赤外線撮影・非破壊調査・蛍光X線元素分析

1. 研究開始当初の背景

本研究グループは、これまでに国内30箇所を超える所蔵者を訪ね、能・狂言面の調査を行い、平成15-16年度には科学研究費補助金〔基盤研究(c)(2)〕(研究課題名「能・狂言面のデータベース化のための基礎的研

究」。研究課題番号15520128)を受け、能・狂言面のデータベース化に必要なデータを収集し、能・狂言面データベースの可能性と課題を検討した。

2. 研究の目的

能・狂言面研究は、能・狂言研究の重要な一角であるにも関わらず、文学史・中世史・芸能史・美術史など、複数の分野に亘る研究テーマであることに加え、所蔵が個人や地方の寺社であるために調査に制約が伴うことが障害となり、これまで、多角的総合的見地からの体系的研究が行われてこなかった分野である。本研究では、各地に所蔵される能・狂言面を網羅的に調査し、赤外線デジタル撮影によって、面の表裏に記される銘文、極書、印鈔、所蔵印を判読し、さらに、マイクロスコブ、ファイバーマルチチャンネル分光器などの非破壊的手法を用いて、木地、漆、顔料、膠着剤などの材料を科学的に分析し、あらゆる年代測定情報を集積し、能・狂言面に関する総合的なデータベースを構築する。さらに、各地への能面の伝播・地方祭礼における使用状況の調査も平行して行い、能面の様式の形成過程の解明をめざしていく。

3. 研究の方法

(1) 日本内外に所蔵される能・狂言面を網羅的に調査し、赤外線デジタル撮影によって、面の表裏に記される銘文、極書、印鈔、所蔵印を判読する。

(2) マイクロスコブ、ファイバーマルチチャンネル分光器などの非破壊的手法を用いて、木地、漆、顔料、膠着剤などの材料を科学的に分析する。

(3) 叙上の方法によって、あらゆる年代測定情報を集積し、能・狂言面に関する総合的なデータベースを構築する。

4. 研究成果

国内では、林原美術館（岡山市）、国立能楽堂（東京都）、香川県歴史博物館、菅浦須賀神社郷土史料館（滋賀県）、甲津原神社（滋賀県）、三重県伊勢市通町公民館、三重県伊勢市一色町公民館、賀多神社（三重県鳥羽市）、大歳神社（兵庫県神戸市須磨区）、新徳歴史民俗資料館（新潟県佐渡市）、正法寺（新潟県佐渡市）、牛尾神社（新潟県佐渡市）、大聖院（新潟県佐渡市）、能楽資料館（新潟県佐渡市）、善竹忠一郎家、茂山千五郎家、片山家（一部）、金桜神社（山梨県）、上田市立博物館（長野県）、諏訪神社（長崎市）、善竹忠一郎家・茂山忠三郎家・山本東次郎家・和歌山県立博物館寄託紀州東照宮蔵面・佐賀県立博物館寄託高取家蔵面・宗像神社（福岡市）、嵯峨芸術大学博物館寄託清涼寺所蔵面、梅若家所蔵面、林喜右衛門家所蔵面、押領司家所蔵面（宮崎県）、国外では、ザンクトガレン民族博物館（スイス・ザンクトガレン）、リートベルク美術館（スイス・チューリヒ）、リンデン州立民族博物館（ドイツ）、ウィーン民族博物館（オーストリア）、ギメ美術館

（フランス）、アムステルダム国立美術館（オランダ）、グラッシ博物館（ドイツ）・エッセン民族博物館（ドイツ）、Pitt Rivers Museum（イギリス）、Victoria & Albert Museum（イギリス）、the British Museum（イギリス）の調査を行ない、本科研以前の面調査も含めて63ヶ所、1845点の能・狂言面のデータを集積し、これをデータベース化した。これによって、面の名称、墨書銘、焼印などの文字情報からの検索が可能な形となった。面の異称の入力等、検索方法にはまだ改良すべき点が多く残っているが、能面データベースの雛形を作ることができた意義は大きい。なお、現存面は、修復や塗り重ねを経ているものが多く、面の表面の情報だけでは今日に至る面の歴史を掘り起こすことができない。一例が紀州東照宮所蔵面であり、ここには祭礼の中で塗り替え、塗り重ねによる改造が多く施された面が多く所蔵されている。非破壊を条件とする本調査では、塗り替えの事実の確認と、漆下の墨書銘の調査に限定されるが、今後、博物館との連携によって、調査方法の拡大が期待される。

また、本研究では、能・狂言面と共に所蔵されていた能道具についても、関連研究として新知見が得られた。その一例が、金桜神社蔵の鼓胴から発見された、鼓胴作者「折居」の署名と花押である。

調査の結果は、所蔵先や地域に報告を行うことを原則とし、三重県伊勢市一色町、三重県伊勢市通町、三重県鳥羽市賀多神社所蔵面の調査の成果は、伊勢市教育委員会編『一色の翁舞調査報告書』に収録されている。

なお、海外所蔵面調査は、事前の調査打ち合わせを含め、多大な準備の時間を要し、調査方法も含め、模索の段階からの開始であったが、未発掘の面データを集積する可能性を開くと共に、海外との学術交流への寄与という点においても重要であるとの認識を持つに至った。the British Museum（大英博物館）の調査結果は、同博物館HPにおいて公開の協力要請があり、調査資料を提供した。本研究において、調査依頼の手順、調査形態、調査機器の吟味等、海外調査の方法をほぼ確立することができたものと思われる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

① 大谷節子、「謡伝授と謡本」、神戸女子大学古典芸能研究センター紀要、3巻、71～84、2010年、査読無

② 高妻洋成 (Y. Kohdzuma), K. Fukunaga, I. Hosako, T. Koezuka, M.-J. Kim, T. Ikari, X. Du との共同執筆、Terahertz

analysis of an East Asian historical mural painting, Journal of the European Optical Society - Rapid Publications, 5, 10024, 1~4, 2010年、査読有

③大谷節子、「能・狂言面データベースの課題と可能性」(『演劇映像学2007 報告集2』17~23頁、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム「演劇・映像の国際的教育研究拠点」発行、2009年、査読無)

④宮本圭造、「鬼神面の系譜」(『演劇映像学2007 報告集2』17~23頁、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム「演劇・映像の国際的教育研究拠点」発行、2009年、査読無)

⑤大谷節子、「京観世岩井家の明和本批判——岩井七郎右衛門家旧蔵資料から——」(『能と狂言』6号、52~68頁、能楽学会、2008年、査読有)

⑥宮本圭造、「能面史逍遙(一) 源氏香の面」(『能』604号、9~10頁、京都観世会館発行、2008年、査読無)

⑦宮本圭造、「能面史逍遙(二) 笹野堅著『狂言之面』と大光坊」(『能』603号、7~9頁、京都観世会館発行、2008年、査読無)

⑧宮本圭造、「能面史逍遙(三) 天下一角坊再検」(『能』602号、8~9頁、京都観世会館発行、2008年、査読無)

⑨大谷節子、「面が伝える芸能の深秘」(『能』578号、1頁、京都観世会館発行、2006年、査読無)

[学会発表] (計5件)

①大谷節子、「面に刻まれた能の歴史」、能楽学会大会、2010年5月16日、早稲田大学

②大谷節子、「謡本——その不完全なるもの——」、能楽学会能楽フォーラム、2009年3月14日、神戸女子大学

③大谷節子、「能・狂言面データベースの課題と可能性」、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム国際研究集会「散楽と仮面」、2007年12月7日、早稲田大学

④宮本圭造、「鬼神面の系譜」、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム国際研究集会「散楽と仮面」にて研究発表、2007年12月7日、早稲田大学

⑤大谷節子、「京観世再考——岩井七郎右衛門家旧蔵資料から——」、能楽学会大会、2007年5月13日、早稲田大学

[図書] (計1件)

①伊勢市教育委員会発行『国の記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財 一色の翁舞調査報告書』、2008年、245頁の内、12~31・48~66・136~148・163~243、大谷節子・宮本圭造・見市泰男(分担執筆)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 節子 (OTANI SETSUKO)
神戸女子大学・文学部・教授
研究者番号：90211797

(2) 研究分担者

西田 実継 (NISHIDA MITUGU)
神戸女子大学・文学部・教授
研究者番号：60164563
高妻 洋成 (KOUZUMA YOUSEI)
独立行政法人国立文化財機構奈良
文化研究所・保存修理科学研究室長
研究者番号：80234699

宮本 圭造 (MIYAMOTO KEIZOU)
法政大学・能楽研究所・准教授
研究者番号：70360253

梶木 良夫 (KAJIKI YOSIO)
神戸女子大学・文学部・准教授
研究者番号：30299078

(3) 連携研究者

研究者番号：